認定調査スキルアップちらし
令和７年４月号

「評価軸はわかっているのに…」と感じられている方も再度確認し**「伝わる特記事項」**を目指しましょう。



スキルアップちゃん

認定調査項目の基本的な考え方

３つの評価軸

認定調査項目は、「能力で評価する調査項目」、「介助の方法で評価する項目」「有無及び頻度で評価する項目」の３つに分類することができる。

介護の手間にかかる審査判定を行う際、議論の中で着眼した特記事項とその調査項目が、３つの評価軸のどの基準によって調査されているかを知ることは、より適切に審査判定を行うための基本となる。（認定調査員テキスト２００９改訂版P20～）

【3つの評価軸の特徴】

区　分	能　力	介助の方法	有　無
主な調査項目	身体の能力 （第1群を中心に10項目） 認知の能力 （第3群を中心に8項目）	生活機能 （第2群を中心に12項目） 社会生活への適応 （第5群を中心に4項目）	麻痺等・拘縮※ （第1群の9部位） ＢＰＳＤ関連 （第4群を中心に18項目）
選択肢の特徴	「できる」「できない」の表現が含まれる	「介助」の表現が含まれる	「なし」「ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	試行による本人の能力の評価	介護者の介助状況 （適切な介助）	行動の発生頻度に基づき選択
特記事項	日頃の状況 選択根拠・試行結果 （特に判断に迷う場合）	介護の手間と頻度 （介助の量を把握できる記述）	介護の手間と頻度
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」 ≠ 「日頃の生活の状況」	「実際に行われている介助が不適切な場合」	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合

残念な特記事項

誤字・脱字、変換ミスなど、提出前にプリントアウトし確認しましょう

▲誤字・脱字、変換ミス

▲簡潔でない

3枚以上にわたる場合、1群が全体の半分以上の場合

不要な情報が含まれている可能性が高い。

▲明瞭でない

どの項目の特記事項かがわかりにくい

3つの評価軸が理解できていない

主語がはっきりしない

「能力」で評価する項目の主語は、対象者

「介助の方法」で評価する項目の主語は、介護者

伝わる特記事項

【必要なこと】

①選択の根拠　②頻度

③具体的な介護の手間

【簡潔・明瞭に書くために】

頻度は文末に（〇回／日）のように記載する。

文章は短く

敬語は不要

どの項目の特記事項かを明確に

特記事項における明らかな誤字・脱字は、問合せすることなく、名古屋市介護認定事務センターで修正させていただきますので、ご了承ください。



審査会委員より、特記事項の記入について、ご意見をいただきました。



スキルアップちゃん

① すべての項目(７４項目）に特記事項を 記載をしましょう。
（「できる」「介助されていない」「ない」を選択する項目についてもその状況を記載してください。）
「できる」の選択でもまったく問題なくできるのか、やっとできるのか、「介助されていない」であっても楽々できているのか、やっとできているのか　等　個人差があります。どのようにできるかをご記載ください。

② できない事だけでなく、できることも記載しましょう。
例えば…「1-7　歩行」【できない】 5mの継続歩行はできない。 だが、
「2-2　移動」【介助されていない】 何とか自分で家具等につかまり、移動している。 転倒する事はない。
（トイレ 6 回/日、食堂 3 回/日、洗面所 2 回/日）

記載ポイント



「歩行はできない」だが、「移動は介助されていない」→歩行はどれくらいできるんだろう⁉

「1-7　歩行」【できない】 **壁や家具につかまり 2～3 mの歩行は可能**だが、5mの継続歩行はできない。

③「日頃の状況」を聞き取った記載があるが、どのような関係の人から聞き取ったのかの記載しましょう。
独居と共通に記載がある。立会者の記載がなく、排泄の介助や4群の対応に息子、娘の記載があるが、この内容は誰から聞きとったものだろう？

記載ポイント



立会者：夫、妻、（同居 or 別居の）娘、息子　等　より聞き取った。
独居のため立会者はいない。デイサービス利用時の状況を施設職員に確認した　等　と記載があるとわかりやすい。

認定調査スキルアップちらし
令和7年5月号

今月のテーマは「能力」の項目です。

	能 力
主な調査項目	身体の能力 （第1群を中心に10項目） 認知の能力 （第3群を中心に8項目）
選択肢の特徴	「 ① 」「 ② 」 の表現が含まれる
基本調査の選択基準	〔③〕による 本人の〔④〕の評価
特記事項	〔⑤〕の状況 （ ⑥ ）・（ ⑦ ） （特に判断に迷う場合）
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」≠「日頃の生活の状況様子」

「 」の中を埋めてみましょう。
回答は裏面です。

「認定調査の基本（３つの評価軸）」について再確認してみましょう！



スキルアップちゃん

「能力」の項目は…

危険がないと考えられれば調査対象者に実際に行為を行ってもらう等、調査員が調査時確認を行うことを原則とします。実際に行ってもらった状況が日頃の状況と変わりがないか聞き取り、異なる場合は、概ね過去1週間の状況においてより頻回な状況に基づき選択します。

実際に行ってもらえなかった時は、その理由や状況について具体的な内容を「特記事項」記載してください。

（認定調査員テキスト２００９改訂版P20～）

認定調査の基本（3つの評価軸）

能力の評価軸の特徴（回答です）

	能 力
主な 調査項目	身体の能力 （第1群を中心に10項目） 認知の能力 （第3群を中心に8項目）
選択肢の特徴	①「できる」②「できない」 の表現が含まれる
基本調査の 選択基準	③試行による 本人の④能力の評価
特記事項	⑤日頃の状況 ⑥選択根拠・⑦試行結果 （特に判断に迷う場合）
留意点	実際に行ってもらった状況と日頃の状況が異なる場合 「日頃の状況」≠「日頃の生活の様子」

全問正解しましたか。間違った箇所は、
認定調査員テキストを確認しましょう。

★特記事項のポイントは「**日頃の状況**」の聞き取りです。
日頃の状況≠日頃の生活の様子
日頃の状況＝日頃の「確認動作」の可否（その判断において日頃の生活の様子が参照されることはある。）

★能力の項目を記入するときの「**主語**」は、**調査対象者**です。



スキルアップちゃん

認定調査スキルアップちらし
令和7年6月号

今月のテーマは「介助の方法」の項目です。

	介助の方法
主な調査項目	生活機能 （第2群を中心に12項目） 社会生活への適応 （第5群を中心に4項目）
選択肢の特徴	「　①　」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	介護者の〔　②　〕状況（適切な〔　③　〕）
特記事項	〔　④　〕と〔　⑤　〕 （介助の量を把握できる記述）
留意点	「実際に行われている介助が不適切な場合」

「　」の中を埋めてみましょう。
回答は裏面です。

「認定調査の基本（３つの評価軸）」について再確認してみましょう！

「介助の方法」の項目は…

介助の方法の調査項目は、主に「第２群 生活機能」「第５群　社会生活への適応」があります。選択肢には「介助」の表現が含まれます。「介助されていない」「一部介助」「全介助」など、例外はありません。

選択基準は介護者の「介助」状況（適切な「介助」）です。

（認定調査員テキスト２００９改訂版P23～）



スキルアップちゃん

認定調査の基本（3つの評価軸）

介助の方法の評価軸の特徴（回答です）

	介助の方法
主な調査項目	生活機能 （第2群を中心に12項目） 社会生活への適応 （第5群を中心に4項目）
選択肢の特徴	①「介助」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	介護者の〔②介助〕状況（適切な〔③介助〕）
特記事項	〔④介護の手間〕と〔⑤頻度〕 （介助の量を把握できる記述）
留意点	「実際に行われている介助が不適切な場合」

スキルアップちゃん



選択のポイントは…

★朝夕等の時間帯や体調等によって介助の方法が異なる場合、選択基準の「一定期間（調査日より概ね過去１週間）の状況において、**より頻回にみられる状況や日頃の状況で選択**します。

★具体的に介助が「行われている、行われていない」の軸で選択を行うことを原則としますが、「介助されていない」状態や「実際に行われている介助」が対象者にとって**不適切と認定調査員が判断する場合、その理由を特記事項に記載した上で適切な介助の方法を選択**し、介護認定審査会の判断を仰ぐことができます。

★介助の方法の項目を記入するときの**「主語」は、介助者**です。

認定調査スキルアップちらし
令和7年7月号

今月のテーマは「有無」の項目です。

	有 無
主な調査項目	麻痺等・拘縮 （第1群の9部位） BPSD関連 （第4群を中心に18項目）
選択肢の特徴	「 ① 」「 ② 」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	〔 ③ 〕の発生頻度に基づき選択(BPSD)※
特記事項	〔 ④ 〕と〔 ⑤ 〕(BPSD)※
留意点	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合(BPSD)※

※麻痺等・拘縮は能力と同じ

「 」の中を埋めてみましょう。
回答は裏面です。

「認定調査の基本（３つの評価軸）」について再確認してみましょう！

「有無」の項目は…

有無の調査項目は、「1-1麻痺等・1-2拘縮」、「第４群　精神・行動障害」がありますが、麻痺等・拘縮については確認動作ができるかできないかで選択しますので能力と同じ考え方をします。
ここではBPSD関連項目の特徴についてまとめてあります。
選択肢の選択基準には「ある」「ない」の表現が含まれています。外出頻度だけは例外です。
選択基準は「行動」の発生頻度に基づき選択します。特記事項で重要なのは「介護の手間」と「頻度」です。

（認定調査員テキスト２００９改訂版P２９～）



スキルアップちゃん

認定調査の基本（3つの評価軸）

有無の評価軸の特徴（回答です）

	有 無
主な調査項目	麻痺等・拘縮 （第1群の9部位） BPSD関連 （第4群を中心に18項目）
選択肢の特徴	「①なし」「②ある」の表現が含まれる
基本調査の選択基準	③行動の発生頻度に基づき選択（BPSD）※
特記事項	④介護の手間と⑤頻度（BPSD）※
留意点	選択と特記事項の基準が異なる点に留意 定義以外で手間のかかる類似の行動等がある場合（BPSD）※

※麻痺等・拘縮は能力と同じ



スキルアップちゃん

選択のポイントは…

BPSD関連項目は、行動が発生しているかどうかで評価します。

調査日より過去1か月の間（この間に環境が大きく変化した場合には、その変化後から調査日まで）の状況で判断します。現在の環境でその行動が現れたかどうかに基づいて選択します。これらの行動に対して、特に周囲が対応をとっていない場合や介護の手間が発生していなくても各項目に規定されている行動が現れている場合は、**頻度に基づき選択**します。

実際の対応や介護の手間とは関係なく選択されるため、対象者への対応や介護の手間の状況については、特記事項に頻度とともに記載し、介護認定審査会の二次判定（介護の手間にかかる審査判定）の判断を仰ぐことが重要です。

認定調査スキルアップちらし
令和７年８月

今月のテーマは
「軽度者の移動」です。



いどうちゃん

２－２　移動（介助の方法）

定義：「日常生活」において、食事や排せつ、入浴等で、必要な場所への移動にあたって、見守りや介助が行われているかどうかで選択する。



特記事項の記載のポイント

① 移動の機会と頻度を特定する。
自宅内でのトイレ、台所、浴室へなど移動の機会、頻度を特定する。

② 場面ごとの具体的な介助の方法を聞き取る。
場面ごとに介助の方法が変わることがあるため詳しく聞き取る。

point！

③ **軽度者の場合は、転倒の有無や頻度、外出時の移動の状況などを丁寧に聞き取り、特記事項に記載するとマークの選択に反映されない介護の手間が伝わりやすい。**

✿（2-12 外出頻度）の項目とも関連づけて特記事項を記載するとわかりやすい。

特記事項の例



「介助されていない」

例 1）自宅内は何もつかまらず歩いて移動する。転倒等はない。移動の機会は、トイレ（6～7 回/日）、洗面所（3 回/日）、台所（3 回/日）、浴室（1 回/日）。外出時（1 回/週）も歩行補助具の使用や介助はされていない。

例 2）移動の機会は、トイレ（7～8 回程/日）、食堂（3 回/日）、洗面所（1～2 回/日）、浴室（3 回/週）。トイレは居室のすぐ隣りにあり、手すりにつかまり自分で移動。食堂、洗面所、浴室は居室から 5～8m ほど離れており、段差もあるため、家族がそばで見守り移動する。より頻回な状況で選択した。

「見守り等」

自宅内は壁や家具を伝って歩くが、ふらつきが強く歩行が不安定で週 1 回程度つまずき転倒しそうになる。トイレ（4～5 回/日）、洗面所（1 回/日）、食堂（3 回/日）、浴室（3 回/週）。介助はされていないが、転倒のリスクが高く、そばで見守る介助が必要と判断し、適切な介助として「見守り等」を選択。受診時は家族が車で送迎し、院内は家族の見守りのもと杖を使用し歩いている。

認定調査スキルアップちらし
令和7年9月号



スキルアップちゃん

「2－5 排尿」（介助の方法）

特記事項の記載のポイント

排尿は、一日の中で「何度も発生する介助」であり「個人差」がある項目です。介護の手間にかかる審査判定で審査会委員が着目する項目です。

✿記入ポイントは4つ

①排泄方法（トイレ／ポータブルトイレ／尿器／紙パンツ／尿取りパット／オムツなど）



②頻度（日中〇回、夜間〇回）

③失敗の有無と具体的な介助の方法

（失敗には、失禁だけでなく、トイレの便座や床の汚染等も含まれる）

④昼夜の違いを確認

昼間と夜間で排泄の状況が異なる場合

今回は軽度者の記載例です。

上記のポイント①～④を確認しましょう。

「介助されていない」

・①トイレで排泄。一連の行為はすべて自分で行う。②（日中6～7回、夜間１回/日）③トイレまで間に合わず、尿失禁することが1～2回/日あるため、布パンツに尿漏れパットをあてており、交換は自分で行う。

・①④日中はトイレで排泄、夜間はポータブルトイレを使用している。②（日中4～5回、夜間1回/日）④一連の動作は自分で行うが、**ポータブルトイレの後始末は毎朝家族が行う。**③失敗はないと聞き取る。より頻回な状況で選択。

選択に反映されない隠れ介助

・①トイレで排泄。②（日中5回、夜間1回/日）③一連の行為は失敗なく自分で行い、介助は行われていないが、**週2回ほどトイレに間に合わず失禁し、トイレの床が濡れてしまい、掃除は家族が行っている。**パットは本人が好まず使用していない。下着は自分で交換し洗っている。

「見守り等」

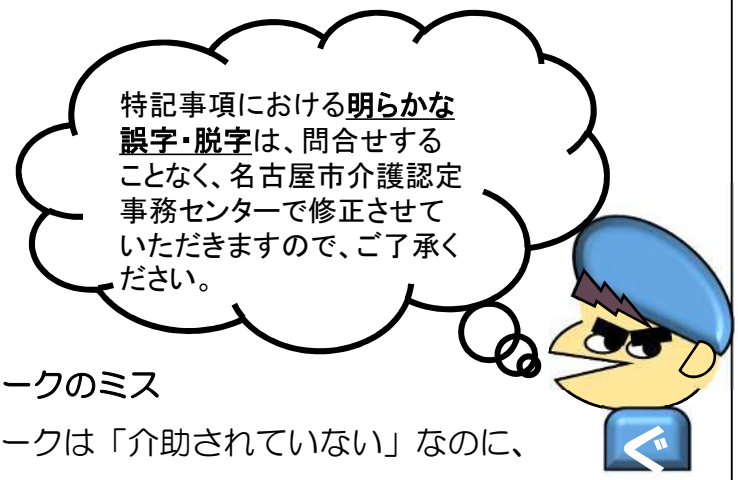
・①トイレで排泄。②（日中5回、夜間1回/日）③一連の行為は自分で行っているが、2回/日程度下着を汚す失敗があり、家族がトイレへの声掛け促し確認を行っている。パットは本人が好まず使用してくれない。

特記事項記入時の注意事項

＜提出前の確認事項＞

★誤字・脱字、変換ミス

★選択もれ、記載もれ



★特記事項と選択したマークのミス

例えば…　選択したマークは「介助されていない」なのに、
特記事項の記載内容は「一部介助」のようなミス

★略語を使用しない。

★敬語は不要

★1行の文字数が多くて、文章の途中で印字がきれたりしていない。

画面作成上ではセル内に文字が収まっていても、印刷すると行が増え、見えなくなる場合があります。

特記事項(様式)のダウンロード

NAGOYAかいごネット（https://www.kaigo-wel.city.nagoya.jp/）
NAGOYAかいごネット＞事業者向け＞認定調査＞調査員テキストと特記事項＞認定調査特記事項
から様式をダウンロードできます。

※特記事項ファイルは、文字数が増えると行の高さを自動調節するようになっていますが、パソコンの画面では枠内に収まっていても、印字したときに文字が欠けてしまう場合があります。印刷イメージで確認し、行の高さを調整してください。

認定調査票をセンターへ提出する前に、もう一度ご確認ください。

認定調査スキルアップちらし
令和7年10月号



スキルアップちゃん

「5－5 買い物」（介助の方法）

特記事項の記載のポイント

★食材、消耗品等の日用品の買い物を**誰**がどのくらいの**頻度**で行っているかを明らかにする。選択の根拠に反映されない頻度の少ない介助についても、特記事項に記載する。

★「できないこと」だけでなく、「できること」も聞き取り、記載する。

★「習慣としてやっていない（昔からできない）」のか、能力の低下で「できなくなった」のかが分かるように記載する。

特記事項の例



「介助されていない」

・近所のスーパーに歩いて買い物に行き、商品を選び支払いを行う。（週２～３回）



・食材や消耗品等の買い物は、ネットスーパーを利用している。注文、支払いは自分で行う。（週１回）

・近所のスーパーに買い物に行き、食材や日用品を買う。（毎日）お米、調味料、洗剤などの重い物は、家族に依頼し買ってきてもらう。（月１～２回）この１週間に家族への依頼はなかった。

「見守り等」



・夫と一緒に買い物に行く。自分で商品を選ぶが、家にあるものを選ぶため、夫が品物を確認し、声をかける。自分で商品を棚から取り、支払いもなんとか行う。購入した品物は夫が運んでいる。（週２回）

「一部介助」

・息子に食材や日用品を依頼して買ってきてもらっている。レシートを見て、息子にお金を支払う。（週１回）



・ヘルパーとスーパーへ行く。腰痛があるため、自分で選んだ商品をヘルパーに棚から取ってもらう。支払いは自分で行う。商品はヘルパーに運んでもらっている。（週１回）

「全介助」

・食材や消耗品の買い物は、昔から妻がすべて行っている。本人が依頼することはない。自分が食べたいお菓子や飲料などは買いに行く。（月１～２回）

認定調査スキルアップちらし
令和7年11月号

BPSD関連項目



スキルアップちゃん

11月、12月号は、第4群 BPSD関連項目について取り上げます。
今月は、BPSD関連項目の特記事項に記載する内容等について説明します。
事例は、12月号に掲載します。

選択根拠

認定調査員テキストp114～

・**社会生活上、場面や目的からみて不適当な行動の頻度で選択**

（これらの行動に対し特に周囲が対応をとっていない場合や手間が発生していなくても、各項目に規定されている行動が現れている場合は頻度に基づき選択する。）

・調査日より、過去１か月間の発生状況

★ 過去１か月間に環境が大きく変化した場合は、その変化後から調査日までの状況

特記事項の構成

①どのような場面で、②どのような行動が起きているか
③行動の頻度、④誰が、どのような対応をしているか
⑤対応の頻度（回数やその時間）

★発生している行動と頻度、その行動に対する介護の手間（対応の状況）と頻度を記載

★選択は「ある」・「ときどきある」だが、手間がない場合や対応していない場合には、そのことを記載

★一つの行動が複数の項目に該当する場合は、まとめて記載

★定義に当てはまらないその他の精神・行動障害（例：異食、暴言・暴力、幻視・幻聴など）は、関連する項目の特記事項に**行動の内容**・**頻度**、**具体的な介護の手間と頻度**を記載

認定調査スキルアップちらし
令和7年12月号

BPSD関連項目



スキルアップちゃん

11月号、12月号はBPSD関連項目について取り上げます。今月は、特記事項の例です。スキルアップちらし令和7年11月号は下記をご参照ください。

★ NAGOYAかいごネット＞事業者向けはこちら＞認定調査＞認定調査の適正化

【特記事項の構成】
①どのような場面で、②どのような行動が起きているか、③行動の頻度、④誰が、どのような対応をしているか、⑤対応の頻度（回数やその時間）

特記事項の例



定義に該当する行動があり、介護の手間がある場合

●（４－３感情が不安定）【ある】
①②会話の最中、突然怒り出す。④家族はその都度なだめるが、理由がわからず本人を納得させるのに時間がかかる。③⑤（３～４回／週、２０～３０分／ 回）

定義に該当する行動はあるが、介護の手間がない場合

●（４－１３独り言・独り笑い）【ある】
①夜、誰もいない部屋で②一人でぶつぶつ何か言っている。③（毎日）④家族は特に何も対応せず聞き流している。



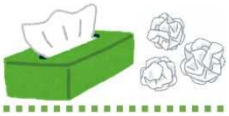
１つの行動が複数の項目に該当し、介護の手間がある場合

●（４－１ 被害的）（４－１２ ひどい物忘れ）【ある】
①かばんや財布を自分でどこかに片付けるが、②しまったことを忘れ「かばんがない、財布がない、泥棒が入って盗られた。」と訴える。③（週２～３回） ④娘が見つかるまで一緒に探している。⑤（１～２回／週、１５分程度）

●（４－８ 落ち着きなし）（４－９ 一人で出たがる）【ある】
①②自宅にいるが、夕方になると「家に帰りたい」と言い、落ち着きがなくなる。玄関のカギを開けて、外に出て行こうとする。④家族は常に本人が出て行かないよう注意している。出て行こうする時は引き留めて、なだめて、落ち着くまで付き添っている。 ③⑤（毎日、３０分程度）

調査項目には含まれていない項目だが、介護の手間がある場合

●（異食）
①②食事時間ではない時にモグモグと口を動かしてることがあり家族が確認すると、ティッシュペーパーらしきものがあった。④吐き出すよう言っても吐き出さないので口腔内から取り出した。③⑤（気が付いたのは１回のみ）④本人の目につくところにはティッシュペーパーを置かないよう対策をとり様子をみている。対策をとってからは発生していない。



認定調査スキルアップちらし
令和8年1月号



スキルアップちゃん

過去１４日間にうけた特別な医療について

選択の3原則

（認定調査員テキスト2009改訂版　p146～）

●医師、または、医師の指示に基づき看護師等によって実施される医療行為に限定
※「気管切開の処置」における開口部からの喀痰吸引（気管カニューレ内部の喀痰吸引に限る）及び「経管栄養」については、必要な研修を修了した介護職種が医師の指示のもとに行う行為も含まれる。
●過去14日間に実施されたもの
●継続して実施されているもののみ対象⇒開始時期、終了予定を確認



特記事項の構成

「実施頻度／継続性」「実施者」「当該医療行為を必要とする理由」

注意事項

●特別な医療に関する情報は、調査対象者、家族、又は介護者から得る。
※医療機関に確認することは守秘義務の問題及び治療上の必要から治療内容について告知を行っていないこともあるので、適切ではない。

特記事項【ある】の例

●（６－１）点滴の管理：骨粗しょう症治療薬の点滴を１週間前の受診時に行った（１回/月）。今後も継続予定。

●（６－９）経管栄養：嚥下困難なため胃ろうから経管栄養を実施。（３回/日）訪問看護師が胃管チューブの管理等を実施。（１回/週）



選択は【ない】が特記事項のみ記載する例



●糖尿病のため血糖値を測定後、インスリン注射を打っている。自分では手の震えがあり正しく手技ができないため、妻が１日３回血糖を測定しインスリン注射を行っている。

認定調査スキルアップちらし
令和8年2月号



スキルアップちゃん

「5－6 簡単な調理」（介助の方法）

特記事項の記載のポイント








★①「炊飯」、「弁当、惣菜、レトルト食品、冷凍食品の加熱」、「即席めんの調理」のうち、発生している行為を特定

②特定した行為を**誰**がどのくらいの**頻度**で行っているかを確認

③概ね過去1週間の状況において、より頻回な状況で選択

★選択の根拠に反映されない介助についても、特記事項に記載。

★「できないこと」だけでなく、「できること」も記載。

★「習慣としてやっていない（昔からできない、経験がない）」のか、能力の低下で「できなくなった」のかが分かるように記載。

特記事項の例



「介助されていない」

・娘が本人宅で炊飯、惣菜の調理を行う。炊飯は週１回行い、１食分ずつ冷凍する。惣菜は週２～３回作り冷蔵庫に入れる。それを本人が１日３回電子レンジで温める。即席めんを食べることはない。より頻回な状況で判断した。

・朝はパンと牛乳、昼、夜は自分で買ってきた弁当を加熱せず、そのまま食べている。不適切な状況とまでは言えないため、介助されていないを選択。

「見守り等」

・炊飯は本人が米を洗い、水の量を夫が指示し、本人がスイッチを入れる。（１回／日）惣菜等の温めは本人が電子レンジに入れるが、加熱時間は夫が指示をしている。（３回／日）



「一部介助」

・炊飯は水加減がわからず、娘が米を洗い、炊飯器にセットしている。スイッチは本人が入れる。（１回／日）惣菜等の温めは本人が行う。（２～３回／週）即席めんの調理は発生していない。



「全介助」

・すべての調理は妻が行っている。（炊飯１回／日、惣菜等の加熱３回／日）昔から本人が調理を行うことはほとんどなかった。本人は週１～２回程度、妻が不在時に弁当の温めや即席めんの調理をすることがある。



・１年前までは炊飯、惣菜の加熱等すべての調理を本人が行っていたが、立位保持が困難となり、現在は夫がすべての調理を行っている。（炊飯１回／日、惣菜等の加熱３回／日）



・経管栄養を実施。妻が流動食を温めている。（３回／日）

認定調査スキルアップちらし
令和8年3月号



スキルアップちゃん

「5－1　薬の内服」（介助の方法）

（認定調査員テキスト2009改訂版　p132～）

定義：「薬の内服」とは、薬や水を手元に用意する、薬を口に入れる、飲み込む（水を飲む）という一連の行為のこと



特記事項の記載のポイント

★薬の内服にどのような介助が行われているかを確認

★調査日より概ね過去1週間の状況において、より頻回な状況や日頃の状況で選択。具体的な内容を「特記事項」に記載。

留意点



①インスリン注射、塗り薬の塗布等、内服以外のものは含まない。

②経管栄養（胃ろうを含む）などチューブから内服薬を注入する場合も含む。



③薬があらかじめ薬局で分包されている場合は含まない。

④薬の内服がない（処方されていない）場合は、薬剤が処方された場合を想定し、適切な介助の方法を選択した上で、そのように判断できる具体的な事実を特記事項に記載。

特記事項の例

「介助されていない」

・薬局で薬を一包化してもらい、自分で準備し内服している。（３回／日）月に１～２回の飲み忘れはあるが、不適切な状態とは言えないと判断。

「一部介助」



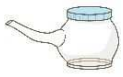
・薬の管理ができないため、訪問看護師が週１回お薬カレンダーに薬をセットする。本人はカレンダーから取り出し内服する。飲み忘れはない。（３回／日）

・毎食後の処方薬あり。自分で内服できていると言うが、毎日２回分程度の残薬があり、不適切な状態である。服薬の声かけが必要と判断し、適切な介助の方法で「一部介助」を選択。

・現在処方薬はない。薬が処方されたと想定した場合、ひどい物忘れがあり、適切な量の内服は難しいと判断した。薬や水を手渡す介助が必要であり「一部介助」を選択。

「全介助」

・寝たきりのため、介護者が、薬を口に入れ水も吸い飲みで飲ませている。（２回／日）



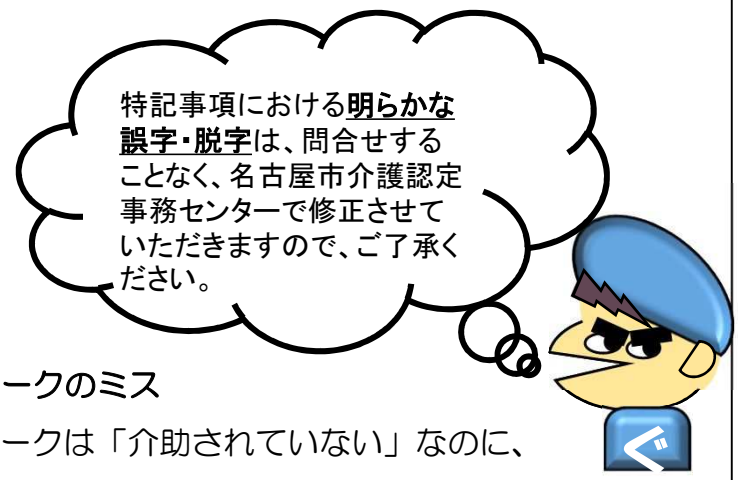
・経管栄養を実施しており、食後に妻が薬をお湯で溶かし、注入器で経管栄養のチューブから注入している。（３回／日）

特記事項記入時の注意事項

＜提出前の確認事項＞

★誤字・脱字、変換ミス

★選択もれ、記載もれ



★特記事項と選択したマークのミス

例えば…　選択したマークは「介助されていない」なのに、
特記事項の記載内容は「一部介助」のようなミス

★略語を使用しない。

★敬語は不要

★1行の文字数が多くて、文章の途中で印字がきれたりしていない。

画面作成上ではセル内に文字が収まっていても、印刷すると行が増え、見えなくなる場合があります。

特記事項(様式)のダウンロード

NAGOYAかいごネット（https://www.kaigo-wel.city.nagoya.jp/）

NAGOYAかいごネット＞事業者向け＞認定調査＞調査員テキストと特記事項＞認定調査特記事項

から様式をダウンロードできます。

※特記事項ファイルは、文字数が増えると行の高さを自動調節するようになっていますが、パソコンの画面では枠内に収まっていても、印字したときに文字が欠けてしまう場合があります。印刷イメージで確認し、行の高さを調整してください。

認定調査票をセンターへ提出する前に、もう一度ご確認ください。